

問い合わせ先

交通部企画課企画調査室

主任企画調査官 土田 英幸

昼間 03-3591-6361(内線6202)

直通 03-3591-5650

平成20年5月8日

海上保安庁

## 平成19年度通航船舶実態調査の結果について

海上保安庁では、従来から船舶交通に関する安全対策のための基礎資料に活用することを目的として、わが国の主要狭水道や沿岸部の主要海域等を対象とした通航船舶実態調査を実施しています。

このたび、平成19年度に実施した通航船舶実態調査の結果を取りまとめましたのでお知らせします(資料1~4)。

なお、特徴は次のとおりです。

1. 主要狭水道別の通航船舶隻数は、明石海峡が863隻(31隻増加)と最も多く、次いで備讃瀬戸東部845隻(28隻増加)、伊良湖水道658隻(116隻増加)の順となっています(資料2参照)。

2. 主要狭水道6箇所の通航船舶総隻数は、4,239隻(29隻増加)でした(資料3参照)。

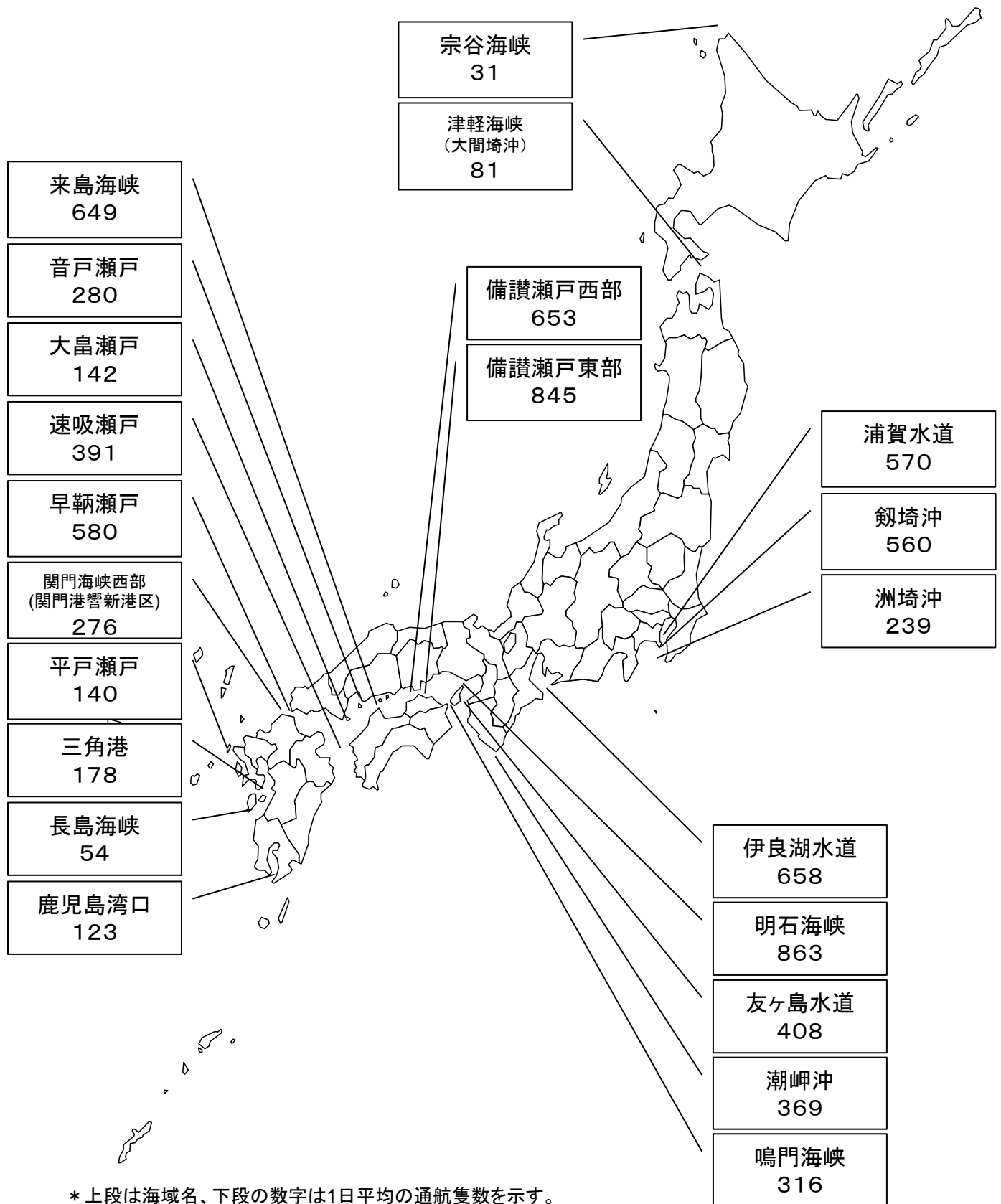
1 通航船舶実態調査とは、通航する船舶の隻数とその種類などを調査するものです。

2 主要狭水道とは、浦賀水道、伊良湖水道、明石海峡、備讃瀬戸東部、備讃瀬戸西部及び来島海峡です。

3 通航船舶隻数とは、24~72時間調査した通航船舶隻数の、1日平均の隻数です。

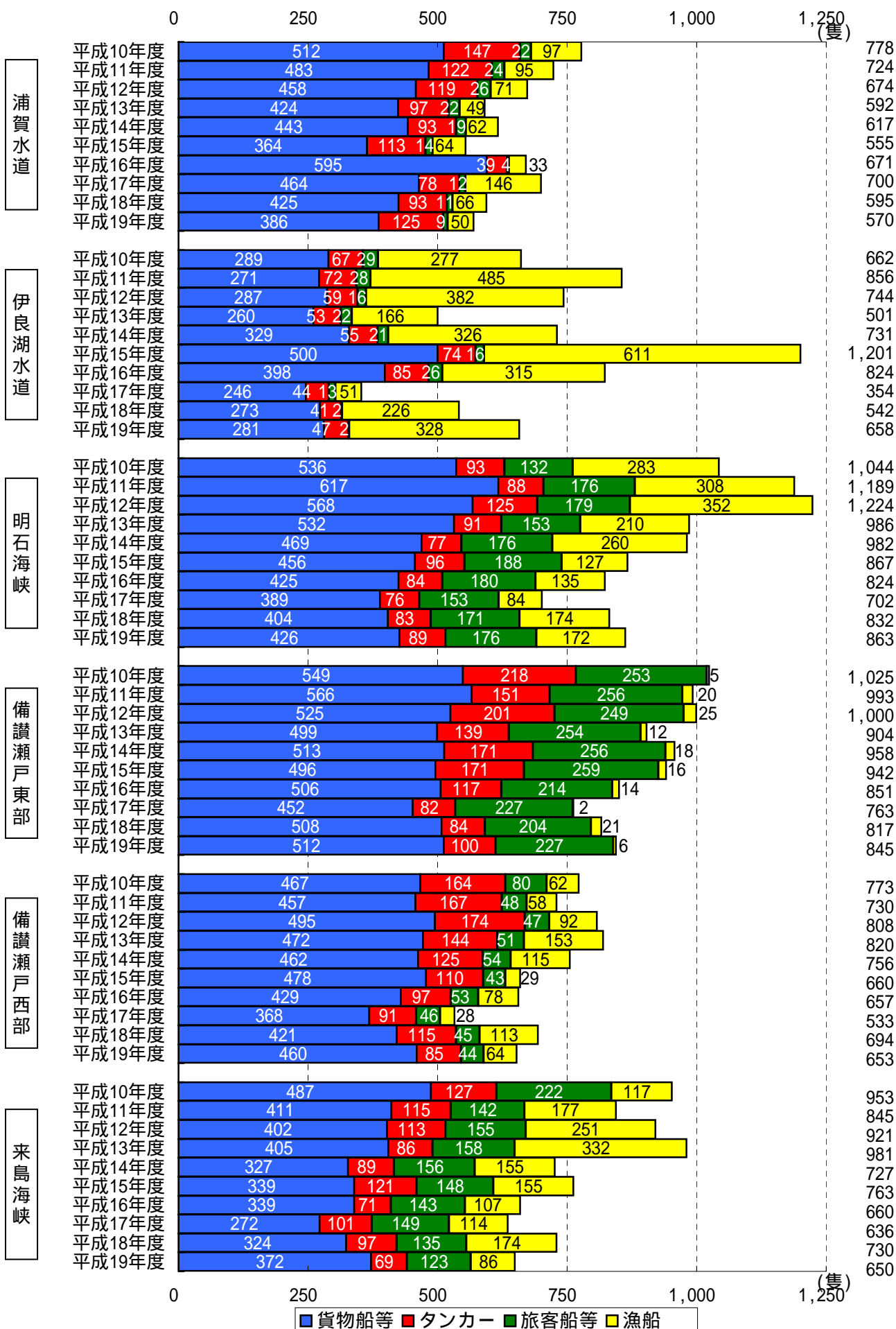
4( )は、昨年の通航船舶隻数との比較です。

平成19年度 通航船舶実態調査箇所と通航船舶隻数一覧



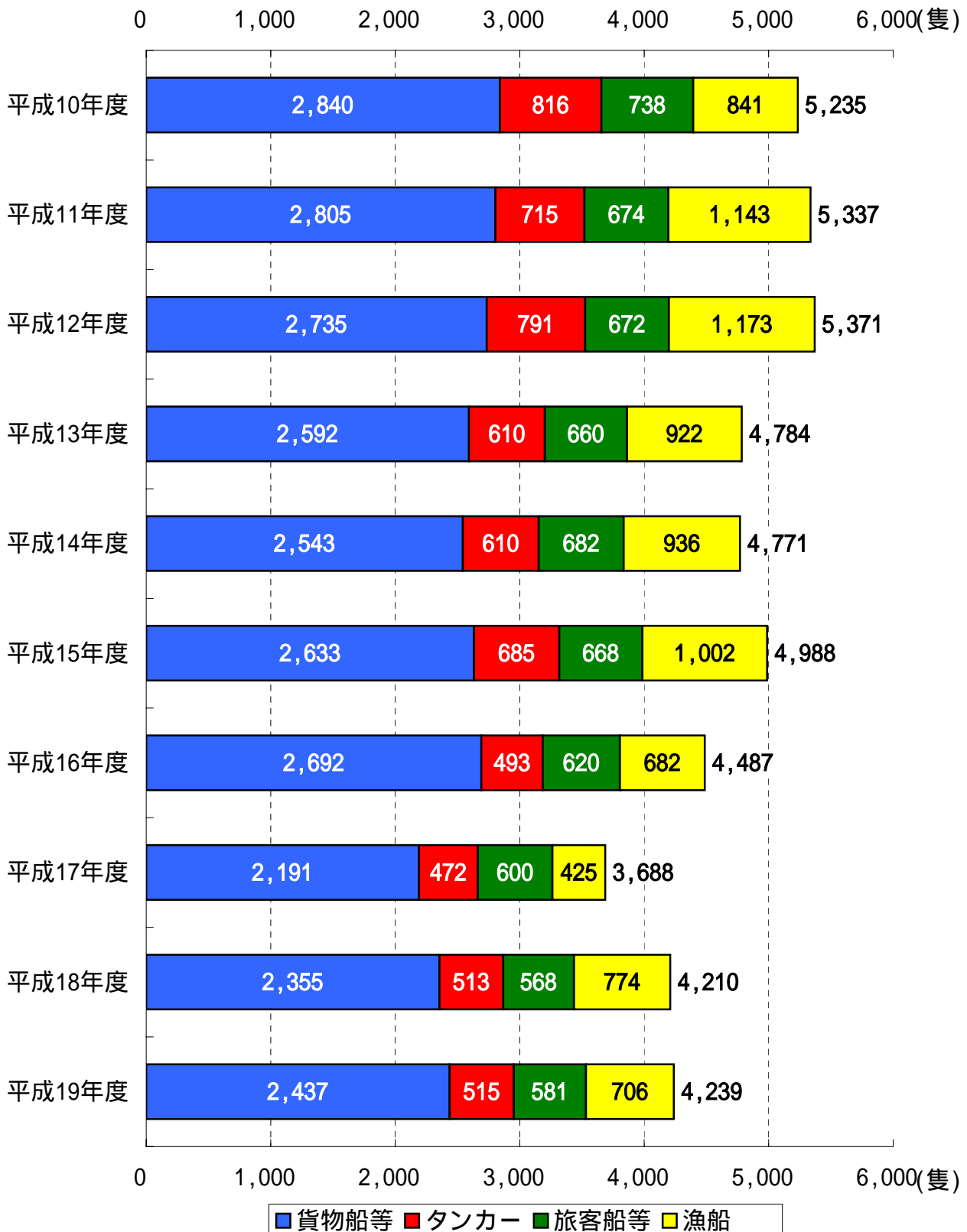
\* 上段は海域名、下段の数字は1日平均の通航隻数を示す。

主要狭水道別通航船舶隻数の推移 ( 1 日平均 )



「貨物船等」とは、貨物船、えい航船、押航船及びその他（巡視船、自衛艦、独航えい・押航船等）をいい、「旅客船等」とは旅客船、カーフェリー、水中翼船及びエアクッション船をいう。

## 主要狭水道(6箇所)における通航船舶総隻数の推移(1日平均)



主要狭水道とは、浦賀水道、伊良湖水道、明石海峡、備讃瀬戸東部、備讃瀬戸西部及び来島海峡をいう。

右肩の数字は、目視により観測した6箇所の1日平均の通航船舶隻数の総計を示している。

「貨物船等」とは、貨物船、えい航船、押航船及びその他(巡視船、自衛艦、独航えい・押航船等)をいい、「旅客船等」とは旅客船、カーフェリー、水中翼船及びエアクッション船をいう。

## 平成 19 年度 観測箇所と観測期間

	観測箇所名	観測期間
1	宗谷海峡	8月21日1000 ~ 8月22日1000 (1日間)
2	浦賀水道	9月10日1100 ~ 9月13日1100 (3日間)
3	洲崎沖	11月 6日1400 ~ 11月 7日1400 (1日間)
4	劔崎沖	11月20日1200 ~ 11月21日1200 (1日間)
5	伊良湖水道	11月13日1200 ~ 11月16日1200 (3日間)
6	明石海峡	11月26日1200 ~ 11月29日1200 (3日間)
7	備讃瀬戸東部	11月 6日1200 ~ 11月 9日1200 (3日間)
8	備讃瀬戸西部	11月 6日1200 ~ 11月 9日1200 (3日間)
9	来島海峡	10月23日1200 ~ 10月26日1200 (3日間)
10	速吸瀬戸	11月30日0900 ~ 12月 3日0900 (3日間)
11	津軽海峡(大間崎沖)	10月10日1200 ~ 10月11日1200 (1日間)
12	友ヶ島水道	11月27日1200 ~ 11月30日1200 (3日間)
13	鳴門海峡	11月20日1200 ~ 11月22日1200 (2日間)
14	潮岬沖	6月26日1200 ~ 6月27日1200 (1日間)
15	音戸瀬戸	10月15日1200 ~ 10月16日1200 (1日間)
16	大畠瀬戸	12月12日1200 ~ 12月13日1200 (1日間)
17	早鞆瀬戸	10月22日1200 ~ 10月25日1200 (3日間)
18	平戸瀬戸	11月 5日1200 ~ 11月 7日1200 (2日間)
19	関門海峡西部(関門港響新港区)	10月10日1200 ~ 10月12日1200 (2日間)
20	鹿児島湾口	10月11日1000 ~ 10月12日1000 (1日間)
21	長島海峡	10月 9日1200 ~ 10月10日1200 (1日間)
22	三角港	10月25日1200 ~ 10月26日1200 (1日間)